

# 平成30年度普及指導活動成果事例



平成31年4月

青森県農林水産政策課

表紙写真

東青地域県民局

地域農林水産部農業普及振興室

課題名：若手女性起業等による農山漁  
村起業活動の推進

「イタリア野菜の収穫体験」

西北地域県民局

地域農林水産部農業普及振興室

課題名：水田を活用した加工・業務用野  
菜の産地育成

「たまねぎの収穫」

中南地域県民局

地域農林水産部農業普及振興室

課題名：「青天の霹靂」の付加価値づく  
りと高品質・極良食味米生産  
の推進

「中南地域「青天の霹靂」研修会」

上北地域県民局

地域農林水産部農業普及振興室

課題名：生産力の向上によるながいも産  
地力の強化

「ドローンによる農薬散布」

三八地域県民局

地域農林水産部農業普及振興室

課題名：市場ニーズや地域特性に応じ  
た農林水産物の生産振興

「サマーエンジェル現地検討会」

下北地域県民局

地域農林水産部農業普及振興室

課題名：異業種との連携による直売所の  
活性化

「しもきたマルシェの会場の様子」

地域名	タイトル	指導対象	主な成果	ページ
東青地域 県民局 地域農林水産部 農業普及振興室	1 「青天の霹靂」の生産拡大とブランド化の推進	青森農協「青天の霹靂」生産者部会、集荷組合「青天の霹靂」作付生産者部会	生産目標の玄米タンパク含有率6.0%以下の達成率は51.2%と前年より下がったが、出荷基準である玄米タンパク含有率6.4%以下は達成率98.3%（県95.4%）と、高い水準を維持することができた。	5
	2 トマト指定産地の生産力向上	青森農協トマト部会、青森農協ミニトマト部会	「2本仕立てUターン誘引栽培講習会」を実施した結果、毎回20名以上の参加者があり、平成30年度の導入農家戸数は、平成29年度の24戸から28戸に増加した。 先進農家の栽培事例を周知した結果、自らの経営に取り入れる生産者が現れるなど、波及効果が見られた。 個別成績表の配布後、個別の取組内容や反省点についての意見交換会を開催した結果、次年度の栽培に向けた課題が整理された。	6
	3 商品力が高い大粒品種ぶどうの普及拡大	青森市ぶどう協会	シャインマスカットの栽培面積は1.0ha（H27）から1.4haに増加した。 新品種として「コトピー」の品種特性及び地域適応性を把握し、会員に情報提供した。	7
	4 地域経営を担う集落営農組織の法人化と経営改善支援	集落営農法人	管内11法人と関係市町村、農協、県民局等を構成員とする「東青地域集落営農ネットワーク協議会」が設置された。 外ヶ浜町で6法人と1任意組織による広域連携法人を目指すこととなったほか、青森市でも、集落営農法人と任意組織を含めた連携が必要との認識が深まった。 法人構成員の跡継候補者の意向調査で、法人に関心のある人が一定数いることが確認できた。	8
	5 若手女性起業等による農山漁村起業活動の推進	若手女性等	新たに1名が収穫体験の受入れを行った。また、さらに1名が今年度新たに東青地域G・B・T推進協議会に加入し、野菜の収穫体験を受入れた。 情報紙やセミナーへの参加等を通じて起業間の親交がさらに深まったほか、グリーン・ツーリズムに取り組むなどの部門拡大やネットショップでの商品販売など、若手女性等の起業活動に対する意欲向上が図られた。	9
中南地域 県民局 地域農林水産部 農業普及振興室	6 農業経営基盤の強化による地域経営体のステップアップ	農事組合法人にしめや、村市地区集落営農組合、杉ヶ沢集落営農組合、田代集落営農組合	2集落営農組合で「にんにく」に取り組み、栽培面積が20aから40aに拡大。小幅であるが定着化に向かっている。 4集落営農組合の統合の承認について協議することを確認するとともに、統合後の地代、オペレーター賃金等について話し合い、考え方を統一した。	10
	7 中南地域の農村資源を活かした体験交流の推進	体験交流に関心のある管内農業者等	セミナーを通じて、グリーン・ツーリズム実践農家のほか、「農のふれカフェ」に関心を持った新たな人材を掘り起こし、育成した。 個別指導により、メニューや体験スタイルを検討したことで、新たに6件が「農のふれカフェ」を開始した。 お披露目会の開催により、「農のふれカフェ」の認知度がアップした。 実践者が情報交換を通して、お互いの活動を参考にしながら交流を深め、共同でPRしていこうとする気運が高まった。	11

地域名	タイトル	指導対象	主な成果	ページ
中南地域 県民局 地域農林水産部 農業普及振興室	8 田舎館産米のブランド化に向けた栽培技術の確立	田舎館村「稲華会」	展示ほの調査結果から、土壌診断に基づき土壌改良資材を省略しても、収量及び食味関連形質に影響がないことが確認できた。 「米・食味分析鑑定コンクール国際大会」において、会員1名が認定農業者部門で金賞を受賞した。 会員1名がグローバルGAP認証を取得した。	12
	9 「青天の霹靂」の付加価値づくりと高品質・極良食味米生産の推進	中南管内「青天の霹靂」作付者、津軽みらい農協特A米プレミアム研究会	天候の影響を受け、中南地域の出荷基準達成率が96.5%となった中、津軽みらい農協特A米プレミアム研究会の特別栽培米の達成率は100%となり、販売店の要望を踏まえ、特別栽培取組面積は本年産の23haから34ha（申請面積）へ増加した。 特別栽培取組農家のうち、3名（6ha）がグローバルGAPの団体認証を取得した。	13
	10 市場ニーズに対応した高品質ももの生産推進	つがる弘前農協桃生産部会、津軽みらい農協もも生産協議会、相馬村農協もも生産者	平成30年産の管内農協における生産者は202名、栽培面積は約28haとなった。 出荷量は307tと前年産より減少したが、販売額は過去最高の1億3千万円となった。 有望品種実証ほの設置により「まどか」「さくら白桃」が端境期に出荷できるメリットが確認されたことで導入意欲が高まった。 「まどか」の農協への出荷量は、前年に比べ約35%増加した。	14
	11 商品性の高いぶどう生産に向けた支援強化	弘前地区農協ぶどう連絡協議会、(株)弘果シャインマスカット生産者	スチューベンの特秀・秀割合は、88%と高品質な果実生産が行われた。 シャインマスカットの出荷者が40人となり目標を上回るとともに新規作付者も増加した。 生産者により差はあるものの一粒重13g以上の高品質果実が生産された。	15
	12 「津軽のミニトマト」の産地力強化	JAつがる弘前ミニトマト生産者、JA津軽みらいミニトマト生産者	平成27年から栽培を始めた新規生産者の販売量は、95t増加し312tとなった。 省力技術等の導入戸数は14戸増え20戸、10a以上作付戸数は9戸増え82戸となった。 2農協合わせたミニトマトは、生産者が23戸増え206戸、作付面積が2ha増え20ha、販売額が1.3億円増え8.6億円となった。 ワンランク上の商品づくりについては、首都圏有名レストランへのサンプル提供や県内小売店でのテスト販売により、求評を行うこととした。	16
※三八	13 市場ニーズや地域特性に応じた農林水産物の生産振興	JA八戸果樹総合部会プラム・プルーン専門部	結実の多い園地では摘果が実施されてきており、主力品種「大石早生」の大玉果率は平成29年、30年とも71%に向上した。 栽培暦と収穫適期指標の配付により、有望品種も含めて基本技術が周知された。 病害虫対策を強化した防除暦が普及したほか、害虫被害の多い園地では交信攪乱剤を導入する動きがある。	17

※三八：三八地域県民局地域農林水産部農業普及振興室

地域名	タイトル	指導対象	主な成果	ページ
西北地域 県民局 地域農林水産部 農業普及振興室	14 極良食味品種「青天の霹靂」の高品質・良食味生産	「青天の霹靂」作付者	本年度の生産目標達成率（玄米タンパク質含有率6.0%以下）は35.1%（目標80%）、単収は7.0俵（目標8.0俵）といずれも目標を大きく下回った。 前年産に引き続き気象・土壌等の自然条件の影響を受け、生産目標及び単収の目標達成といった課題が残されたが、出荷基準達成率は93.3%と平年並みを維持した。	18
	15 水田を活用した加工・業務用野菜の産地育成	加工用トマト生産者、加工用たまねぎ生産者、JAごしょつがるつくねいも生産者、JAつがるにしきた加工用ねぎ生産者	2か年の実証結果に基づき、加工用トマト・たまねぎの省力栽培手引を作成した。 つくねいもは、肥効調節型肥料及び防草シートにより労働時間が削減された。 ねぎは、肥効調節型肥料と在ほ期間の延長により省力化・高収量化が図られることが周知され、取組が拡大している。	19
	16 シャインマスカットの産地育成	シャインマスカット生産者等	五所川原市やつがる市、中泊町の水田地帯では水稻育苗ハウスの有効活用として作付された。また、鶴田町や板柳町のぶどう地帯では露地で作付けが拡大され、平成30年の栽培面積は3.9haとなった。	20
	17 産直組織等を核とした西北産品の販売拡大	西北津軽産直ネットワーク協議会、農山漁村女性起業家	中泊町特産物直売所「ピュア」の平成31年2月末現在の出荷システムの登録会員が15名、年間集荷金額が約300万円となり、午後の品不足の解消につながった。また、取組が管内の他産直施設に波及し、新たに2組織が実施したほか、2組織が実施に向けて検討中である。 販路拡大を目的に産直ネットワーク間の出張販売等を支援した結果、売上げが増加し農家所得の向上につながった。 女性起業家への支援により、加工と販売に関する技術や知識が高まったほか、新商品が2品開発された。	21
	18 西北の魅力を感じるグリーン・ツーリズムの推進	西北管内グリーン・ツーリズム実践者及び意向者	管内で人気のある体験メニューや観光資源を組み合わせ、首都圏大学のゼミ等の現地研修向けの旅行商品2コースを開発し、パンフレットに取りまとめた。 2名が農家民宿営業許可を取得するなど、新たに宿泊や日帰り体験に取り組み農業者が4名増加した。	22
上北地域 県民局 地域農林水産部 農業普及振興室	19 新規就農者の定着と経営基盤の強化	農業次世代人材投資資金受給者	ヤングファーマーゼミナールの受講をきっかけに、土づくりや病害虫のほか、農薬、肥料、輪作、農業機械、市場流通、農業経営に係る基礎的な知識・技術を身につけることができ、対象者のレベルアップにつながっている。	23
	20 農作業の軽労化の推進と農業労働力補完体制づくり	上北地域管内の女性農業者(野菜農家)	補助作業着の検証結果や、軽労化に係る農家の工夫事例などを取りまとめた事例集の作成、セミナーの開催などにより、軽労化への意識が高まった。 援農活動に参加した学生の大半がアルバイト等で継続して上北地域農業を応援する「かみきた農業サポーター」となった。また、自ら援農風景をSNS等で紹介するなど、農業・農村のイメージアップに一役買っている。 青森中央学院大学に援農サークルが結成され、管内JAや市町でも、学生を働き手とした労働力補完体制づくりに向けた独自の動きが見られるようになった。	24

地域名	タイトル	指導対象	主な成果	ページ
上北地域 県民局 地域農林 水産部 農業普及 振興室	21 水稲 (主食・ 飼料用) の低コス ト・省力 技術導入 及び飼料 用米専用 品種の作 付け拡大	十和田地区農 事組合法人連絡 協議会、十和田 アグリ株式会社、 有限会社みらい 天間林、農事組 合法人フラップ あぐり北三沢	管内の省力・低コスト栽培（直播栽培、高密度は種移植栽培）面積は平成29年の376haから705haに増加した。 管内の飼料用米専用品種作付け割合は平成29年の41%から66%に増加した。 飼料用米新品種「えみゆたか」及び有望系統の栽培特性が理解されるとともに、収量性が既存品種を上回ることを確認され、担当農家から高い評価が得られた。	25
	22 乳質改 善共励会 の活性化 による酪 農経営支 援	管内酪農家 (JAゆうき青森、 JA十和田おいら せ、JAおいらせ)	本年度の現地審査の際、前年度の審査結果や情報提供を参考にした改善への取組が確認される等、活性化に向けた取組の効果が現れてきている。 ・乳質Aランク率：53%→54.3% ・個体平均乳量：8,270kg→8,444kg 現地審査結果をJAと検証した結果、飼養環境の改善に向けた取組を支援する必要があるとの認識が高まり、外部団体の事業活用に繋げることができた。	26
	23 上北ト マトの生 産拡大に よる産地 力強化	JA十和田おい らせ トマト部 会、JAゆうき青 森トマト部会	生産者のほ場で実際の作業方法などを直接指導したところ、草勢維持などにつながった。 気象の変化に合わせた栽培管理の指導と新品種の導入が進んだことで、A品率は、H28年の31.2%からH30年は34.1%に向上した。 高単価期の9～10月出荷割合は、H28年の36.1%からH30年は39.9%に増加した。 オオタバコガによる食害が問題となっていたため、黄色防蛾灯設置による害虫侵入防止実証ほを管内に2か所設置した。被害発生がやや多かったH30年は、防蛾灯設置ハウスで被害が大幅に低減し、被害防止効果が確認された。	27
	24 生産力 の向上に よるなが いも産地 力の強化	JA十和田おい らせ、JAゆうき 青森、JAおい らせ各ながいも 部会、JAゆうき 青森野菜振興会 種子部会	JA種子増殖ほのウイルス検査を部会員と実施し、ウイルス病の見分け方、アブラムシ防除を徹底し、種子供給を確保した。 ドローン等による省力化技術を実演することで栽培者の理解が深まった。 担い手育成塾生が「長いもの達人」の技術を学び栽培技術のレベルアップが図られた。	28
※下北	25 異業種 との連携 による直 売所の活 性化	下北管内農林 水産物直売所、 しもきたマルシ ェ実行委員会	4回開催された「しもきたマルシェ」には、延べ70店舗が出店し、約127万円の農林水産物を販売するなど、産直施設のPRや地産地消の推進を図ることができた。 「しもきた地域産直マップ」や「直売所食材活用レシピ」の作成・配布等により、「しもきたマルシェ」や下北地域の直売所が広く周知されるようになった。 直売所と異業種との連携により、下北産食材を利用した「ヘルシー弁当」や「つるあらめんセット」の商品化や県庁生協での特別メニューの提供が始まった。	29

※下北：下北地域県民局地域農林水産部農業普及振興室

# 1 「青天の霹靂」の生産拡大とブランド化の推進

～プロジェクトチームによる指導徹底～

### 【概要】

食味を重視した生産を徹底するため、『東青地域「青天の霹靂」生産指導プロジェクトチーム』を主体として、厳しい栽培基準の遵守や生産目標および出荷基準の全量クリアを目指して関係機関と生産者が一体となって指導を展開した。

### 【対象名】

青森農協「青天の霹靂」生産者部会（60名）、集荷組合「青天の霹靂」作付生産者部会（4名）

### 【背景・課題】

- ・平成30年産は作付面積134ha（作付者64名）と前年を6ha上回り、出荷基準達成率98.3%であったが、生産目標達成率は、51.2%で前年を下回った。
- ・全量出荷基準の達成と生産目標の達成率向上を目指し、PTを核に関係機関一体となった生産指導が必要である。



「青天の霹靂」PTの施肥指導現地検討会

### 【普及指導活動の内容】

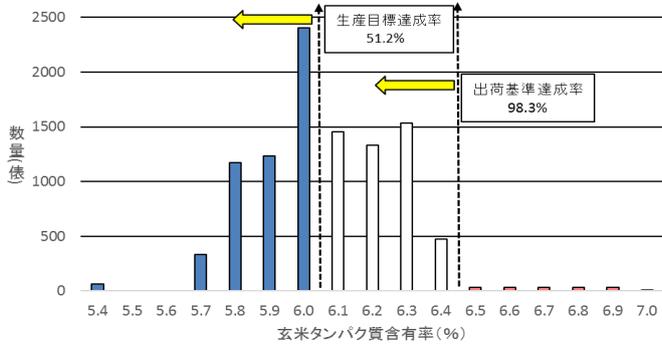
- ・出荷基準全量クリアに向けて、技術普及拠点ほを設置するとともに、現地講習会やリモートセンシングを活用した個別指導等により、生産者が目標達成できるように支援した。
- ・PT連絡会議の開催により、役割分担、年間計画、生育状況等の確認を行い、工程表を随時更新・共有し、円滑な指導チーム運営を行った。



生産指導拠点ほを活用した現地講習会

### 【成果】

生産目標の玄米タンパク含有率6.0%以下の達成率は51.2%と前年より下がったが、出荷基準である玄米タンパク含有率6.4%以下は達成率98.3%（県95.4%）と、高い水準を維持することができた。



H30東青管内「青天の霹靂」玄米タンパク質含有率別数

## 2 トマト指定産地の生産力向上

### ～省力的な誘引方法の導入支援と新規作付者の育成支援～

#### 【概要】

トマト栽培の誘引方法で省力・低コスト化に有効な2本仕立てUターン誘引の導入支援を行った。

また、新規作付者が増加しているミニトマト部会に対しては、先進農家の栽培事例を取りまとめ紹介するとともに、個別成績表の作成を支援した。

#### 【対象名】

青森農協トマト部会、青森農協ミニトマト部会

#### 【背景・課題】

- ・青森農協では、平成30年度を目標年度とする指定産地の産地強化計画において省力・低コスト化に有効な「2本仕立てUターン誘引栽培」の普及を推進している。
- ・ミニトマトは新規作付者が増加しており、生産者間の収量・品質のバラツキが見られている。

#### 【普及指導活動の内容】

- ・現在、一般的に行われている「1本仕立てつる下げ誘引栽培」と比較して、「2本仕立てUターン誘引栽培」は、省力化と種苗費や労働費の低減につながることから、JAと連携して導入支援を図った。
- ・2本仕立てUターン誘引栽培の実践農業者に講師を依頼し「2本仕立てUターン誘引栽培講習会」を開催した。
- ・ミニトマトについては、先進農家による技術内容を取りまとめ、生産者に事例紹介するとともに、個別成績表の作成を支援した。

#### 【成果】

- ・「2本仕立てUターン誘引栽培講習会」を実施した結果、毎回20名以上の参加者があり、平成30年度の導入農家戸数は、平成29年度の24戸から28戸に増加した。
- ・先進農家の栽培事例を取りまとめて、周知した結果、自らの経営に取り入れる生産者が現れるなど、波及効果が見られた。
- ・個別成績表の配布後、個別の取組内容や反省点についての意見交換会を開催した結果、次年度の栽培に向けた課題が整理された。



2本仕立てUターン誘引栽培講習会



先進農家の栽培事例のまとめ

### 3 商品力が高い大粒品種ぶどうの普及拡大

～青森市ぶどう協会への普及拡大支援～

#### 【概要】

栽培技術の向上により、商品力が高い「シャインマスカット」の早期普及拡大を目指す。

また、「シャインマスカット」並みの商品力が高い新品種の地域適応性把握と、導入拡大を目指す。

#### 【対象名】

青森市ぶどう協会（20名）

#### 【背景・課題】

- ・「スチューベン」を主体としたブドウ生産が盛んであるが、価格低迷と高齢化により、栽培面積は縮小傾向にある。
- ・種がなく、皮ごと食べられる大粒ぶどうの消費者人気が高まっているが、栽培面積は少ない。



栽培講習会

#### 【普及指導活動の内容】

- ・無加温ハウスの栽培管理、無核処理、秋季剪定について栽培講習会を行い、栽培技術の向上を図った。
- ・果房管理や収穫適期の判定について栽培講習会を行い、高品質生産に向けた技術と意識の向上を図った。
- ・新品種栽培展示ほを設置して、新品種の特性及び地域適応性を把握し、情報提供を行った。



剪定講習会

#### 【成果】

- ・シャインマスカットの栽培面積は1.0ha（平成27年）から1.4haに増加した。
- ・新品種として「コトピー」の品種特性及び地域適応性を把握し、会員に情報提供した。

## 4 地域経営を担う集落営農組織の法人化と経営改善支援

### ～集落営農法人の持続可能な生産体制の構築～

#### 【概要】

共通の課題をもつ集落営農法人の持続可能な生産体制の構築に向けて、法人間連携や広域組織化に係る検討会、先進地事例調査や高収益作物の栽培実証、後継者の意向調査などを実施した。

#### 【対象名】

集落営農法人（11法人）

#### 【背景・課題】

- 管内の集落営農法人は、国の交付金に依存した経営であること、高収益作物の導入が遅れていること、経理やオペレーターを担う人材が確保されていないなど、共通の課題を抱えており、早急な対応が望まれている。



集落営農ネットワーク協議会

#### 【普及指導活動の内容】

- 法人間連携を推進するため、法人ネットワーク組織の設置を働きかけた。
- 設置した地域協議会において法人間連携や広域組織化について検討するとともに、先進事例調査を実施した。
- 高収益作物の導入により、法人の経営体質を強化するため、ミニトマトやたまねぎ等の栽培実証ほを4法人に設置し検討した。
- 法人の後継者確保に向け担い手の状況と法人構成員の跡継後継者の意向を調査した。



高収益作物の現地検討会

#### 【成果】

- 管内11法人と関係市町村、農協、県民局等を構成員とする「東青地域集落営農ネットワーク協議会」が設置された。
- 外ヶ浜町で6法人と1任意組織による広域連携法人を目指すこととなったほか、青森市でも、集落営農法人と任意組織を含めた連携が必要との認識が深まった。
- 高収益作物定着に向けた継続的取組が必要なことのほか、法人構成員の跡継候補者の意向調査では、法人に関心のある人が一定数いることが確認できた。

## 5 若手女性起業等による農山漁村起業活動の推進

### ～起業の発展段階に応じた活動支援～

#### 【概要】

新たに起業活動に取り組む若手女性等を掘り起こすとともに、若手女性起業家等の実践力向上を図った。

#### 【対象名】

若手女性等（28名）

#### 【背景・課題】

- ・ 構成員の高齢化や後継者不足が深刻化する農山漁村女性組織が増えている中で、農産加工や産直、農漁家レストラン、グリーンツーリズム等の起業活動に意欲的に取り組む若手女性農業者等が増えつつある。
- ・ 起業化に関心のある若手女性の発展段階に応じた活動支援が求められている。

#### 【普及指導活動の内容】

- ・ 起業前の若手女性等6名をリストアップし、個別巡回を行って新たに起業活動に取り組むよう働きかけた。
- ・ 起業実践力向上のためのセミナーを3回開催し、食品衛生や商品づくりなどの基礎知識や技術の習得を図った。
- ・ 起業の発展段階に合わせたフォローアップとして、10名（起業前4名、成長期3名、確立期3名）の課題解決に向けた支援を行った。
- ・ 管内の起業家の活動内容を紹介する情報紙を2回発行した。

#### 【成果】

- ・ 新たに1名が収穫体験の受入れを実施した。また、さらに1名が今年度新たに東青地域G・B・T推進協議会に加入し、野菜の収穫体験の受入れを実施した。
- ・ 情報紙やセミナーへの参加等を通じて起業間の親交がさらに深まったほか、グリーン・ツーリズムに取り組むなどの部門拡大やネットショップでの商品販売など、若手女性等の起業活動に対する意欲向上が図られた。



にんにくの収穫体験



イタリア野菜の収穫体験



笹餅づくりのコツを熱心にメモする

## 6 農業経営基盤の強化による地域経営体のステップアップ

～地域の経済・社会を支える「地域経営」の仕組みづくり～

### 【概要】

西目屋村内の農業を担う法人として収益性や経営管理能力の向上を図るため、高収益作物の栽培や組織体制について、役場・農協や専門家と連携し支援した。

### 【対象名】

農事組合法人にしめや（51戸）、村市地区集落営農組合（14戸）、杉ヶ沢集落営農組合（10戸）、田代集落営農組合（43戸）

### 【背景・課題】

- ・西目屋村大秋・白沢地区では、農家の高齢化等により増加する不作付地等を有効活用した農地維持管理体制の確立を目指し、農地中間管理事業等を活用した農地集積・集約化による体制づくりの検討を重ねてきた。
- ・平成28年に地区内の農地の大半をカバーする大白地区水稻生産組合と白神そば生産組合が合併し「農事組合法人にしめや」を設立した。現在、高収益作物の定着や他集落営農組織の編入の検討など、継続性の高い組織運営の検討が必要である。



にんにく栽培検討会（村市地区）

### 【普及指導活動の内容】

- ・高収益作物「にんにく」の定着に向けて、技術（栽培）と経営（事業計画）の両輪で支援した。
- ・経営管理をテーマとした定例会と「集落営農の統合と広域化」と題して、農業に詳しい専門家による研修会や意見交換会を開催した。



定例会（集落営農座談会）

### 【成果】

- ・2集落営農組合で「にんにく」に取り組み、栽培面積が20aから40aと拡大。小幅であるが定着化に向けて進んでいる。
- ・4集落営農組合の統合の承認について協議することを確認するとともに、統合後の地代、オペレーター賃金等について話し合い、考え方を統一した。



集落営農の統合と広域化に係る研修会

## 7 中南地域の農村資源を活かした体験交流の推進

### ～体験型の食事提供「農のふれカフェ」の取組支援～

#### 【概要】

農村資源を生かした消費者との体験交流「農のふれカフェ」に関心を示した農家等に対して、「農のふれカフェ」セミナーを開催したほか、個別支援を行った結果、新たに6件が営業スタイルを確立した。

#### 【対象】

体験交流に関心のある管内農業者等（38名）

#### 【背景・課題】

- ・近年、消費者からとれたての野菜や果物を豊富に使用した料理を提供するレストランやカフェが注目されており、中南地域では桃やミニトマト、嶽キミなどブランド力がある農産物が豊富であり、その活用が期待されている。
- ・農産物を活用して消費者とのふれあいを農産物活用者等が増加傾向にあるが、飲食店営業は、営業許可取得のための施設整備や、農作業時間との兼ね合いなど課題が多い。
- ・昨年度、農作業との両立が可能な体験型の交流「農のふれカフェ」の実践の準備をし、4名が取組始めている。



農産物の活用メニューを学んだセミナー

#### 【普及指導活動の内容】

- ・「農のふれカフェ」実践事例や先進事例、メニュー開発など、実践に必要な知識や事例を学ぶセミナーを3回開催した。
- ・年度内に実践を開始したい農家4名に対しては、専門家が出席してアドバイスをを行う個別実践研修を開催した。
- ・ブロガーやライターを招待し、実践農家4名を取組を披露するお披露目会を開催した。
- ・実践者同士が情報交換を行う「カフェ会議」を3回開催した。
- ・取組を推進するため、「農のふれカフェ」推進フォーラムを開催した。



専門家による個別指導

#### 【成果】

- ・セミナーを通じて、グリーン・ツーリズム実践農家のほか、「農のふれカフェ」に関心を持った新たな人材を掘り起こし、育成した。
- ・個別指導により、メニューや体験スタイルを検討したことで、新たに6件が「農のふれカフェ」を開始することになった。
- ・お披露目会の開催により、「農のふれカフェ」の認知度がアップした。
- ・実践者が情報交換を通して、お互いの活動を参考にしながら交流を深め、共同でPRしていこうとする気運が高まった。



実践を開始したmeccocafe

## 8 田舎館産米のブランド化に向けた栽培技術の確立

～ 米産地として生き残るために ～

### 【概要】

良品質・安定生産に向けた肥培管理技術と産米の高付加価値化・流通販売体制づくりを支援した結果、良食味生産に向けた肥培管理基準が作成され、販売先が昨年より2件増えた。

### 【対象名】

田舎館村「稲華会」  
(16名)

### 【背景・課題】

- ・平成24年3月に田舎館村「稲華会」が設立され、良食味米の生産による産米評価向上の取組が始まった。
- ・特別栽培「青天の霹靂」「あさゆき」の肥培管理技術及び高付加価値化・流通販売体制づくりの支援と、田舎館産米のブランド化が必要となっている。



追肥現地検討会

### 【普及指導活動の内容】

- ・展示ほを設置し、随時情報提供した。また、現地巡回により追肥等栽培管理の徹底を図った。
- ・取引米穀店の産地訪問受入れ等を支援し、特別栽培「青天の霹靂」「あさゆき」及び取組内容についてPRした。
- ・グローバルGAP認証取得に向けて随時情報提供した。



取引米穀店の産地訪問受入れ

### 【成果】

- ・展示ほの調査結果から、土壌診断に基づき土壌改良資材を省略しても、収量及び食味関連形質に影響がないことが確認できた。
- ・「米・食味分析鑑定コンクール国際大会」において、会員1名が認定農業者部門で金賞を受賞した。
- ・会員1名がグローバルGAP認証を取得した。



米卸売業者との販売に係る打合せ

## 9 「青天の霹靂」の付加価値づくりと高品質・極良食味米生産の推進

～「特A」評価取得と地域の良質米生産の牽引役として～

### 【概要】

地域の良食味米生産の牽引役となる「青天の霹靂」について、特別栽培米やグローバルGAPの認証取得による付加価値づくりと、高品質・極良食味米の安定生産を推進した。

### 【対象名】

中南管内「青天の霹靂」作付者（386名）、津軽みらい農協特A米プレミアム研究会（24名）

### 【背景・課題】

- ・平成27年にデビューした「青天の霹靂」が「特A」ブランドとして勝ち残っていくためには、高品質・極良食味米の安定生産に加え、付加価値づくりが必要となっている。

### 【普及指導活動の内容】

- ・特別栽培生育観測ほを3か所設置し生育状況の把握と指導に活用し、適正な肥培管理と適期刈取りが行われた。
- ・首都圏での販売状況調査で、販売店の要望を把握し、作付計画に反映した。
- ・グローバルGAP申請農家への巡回指導において、持続的な稲作経営の必要性を認識させるとともに、グローバルGAPの内部審査に立ち会い、取得に向けた助言指導を行った。

### 【成果】

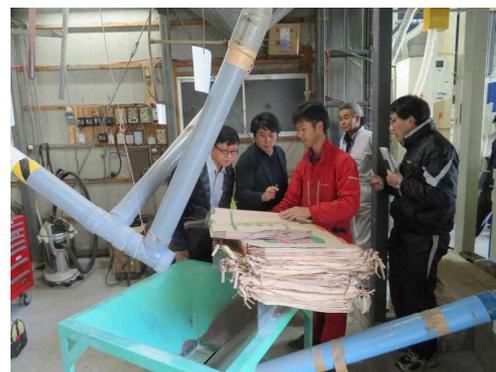
- ・天候の影響を受け、中南地域の出荷基準達成率が96.5%となった中、津軽みらい農協特A米プレミアム研究会の特別栽培米の達成率は100%となり、販売店の要望を踏まえ、特別栽培取組面積は本年産の23haから34ha（申請面積）へ増加した。
- ・特別栽培取組農家のうち、3名（6ha）がグローバルGAPの団体認証を取得した。



中南地域「青天の霹靂」研修会



首都圏での販売状況調査



GAP本審査の様子

# 10 市場ニーズに対応した高品質ももの生産推進

～競争力の向上と「産地・ブランド力」の更なる強化に向けて～

## 【概要】

「中南地域もも生産推進連絡会議」で関係機関の意識統一を図りながら、高品質ももの生産拡大、有望品種の導入推進、集出荷体制の充実に向けた支援した。

## 【対象名】

つがる弘前農協桃生産部会(110名)、津軽みらい農協もも生産協議会(79名)、相馬村農協もも生産者(13名)

## 【背景・課題】

- ・当地域のももは、りんご農家の経営安定を図る品目として位置づけ、関係機関と連携して生産指導等を行ってきた。
- ・これまでの取組により、生産者が増え、「川中島白桃」を主体に栽培面積、生産量が年々増加し、市場からも更なる出荷を求める強い要望がある。
- ・現状の生産量、品種構成では市場側の要望に対応できない状況であることから、生産量の拡大と新たな有望品種の導入、選果作業の集中緩和に向けた対策が必要である。



有望中晩生種「まどか」

## 【普及指導活動の内容】

- ・「中南地域高品質もも生産推進連絡会議」を開催し、関係機関が連携して課題解決に取り組むことを確認した。
- ・主要作業の時期毎にポイントを踏まえた栽培講習会を開催して、栽培管理技術の高位平準化を図った。
- ・有望品種実証ほを設置して生育ステージや果実品質を確認するとともに、先進地視察で生産者の意識の高揚を図った。



先進地視察(東根)

## 【成果】

- ・平成30年産の管内農協における生産者は202名、栽培面積は約28haとなった。出荷量は307tと前年産より減少したが、販売額は過去最高の1億3千万円となった。
- ・有望品種実証ほの設置により「まどか」「さくら白桃」が端境期に出荷できるメリットが確認されたことで導入意欲が高まった。「まどか」の農協への出荷量は、前年に比べ約35%増加した。



出荷量・販売額の推移

## 1 1 商品性の高いぶどう生産に向けた支援強化

～スチューベンの高品質果実安定生産・シャインマスカットの導入促進～

### 【概要】

スチューベンの高品質果実安定生産のための房づくりや病虫害防除指導を行った。

シャインマスカットの導入促進のために栽培講習会や巡回指導により栽培技術の周知を図った。

高品質果実生産のための技術実証ほの設置を行った。

### 【対象名】

弘前地区農協ぶどう連絡協議会（93名）、（株）弘果シャインマスカット生産者

### 【背景・課題】

- ・スチューベンは、貯蔵性にすぐれ国産ブドウの端境期の販売が一定の評価を得ており長期貯蔵に向けた高品質果実生産を維持していく必要がある。
- ・シャインマスカットは消費者ニーズが高く、管内でも導入が進んでいる。スチューベンに比べ、無核化处理や摘粒など高度な技術習得が重要である。また、市場評価の高い果実生産技術や長期冷蔵技術の確立が必要である。



スチューベン栽培講習会

### 【普及指導活動の内容】

- ・スチューベンの摘心、果房整形や病虫害防除の栽培講習会を開催した。
- ・シャインマスカットの栽培講習会や新規栽植者への巡回指により、無核化处理や摘粒等の基本技術の周知徹底を図った。
- ・着粒数やフルメット濃度の技術実証ほを設置し生産基準の検討やりんご冷蔵庫を活用した貯蔵試験を行った。
- ・この結果を栽培研修会で生産者への周知し、関係機関との意識統一を図った。



シャインマスカット摘粒実技指導

### 【成果】

- ・スチューベンの特秀・秀割合は、88%と高品質な果実生産が行われた。
- ・シャインマスカットの出荷者が40人となり目標を上回るとともに新規作付者も増加している。
- ・生産者により差はあるものの一粒重13g以上の高品質果実が生産されている。



着粒数の検討

## 1 2 「津軽のミニトマト」の産地力強化

～省力技術等の導入やワンランク上の商品づくりで産地力アップ～

### 【概要】

関係機関との意識統一を図りながら、ミニトマト省力技術の普及拡大、新規生産者の早期技術習得、ワンランク上の商品づくり等に取り組み産地力の強化を図った。

### 【対象名】

JAつがる弘前ミニトマト生産者（62名）、JA津軽みらいミニトマト生産者（144名）

### 【背景・課題】

- ・中南のミニトマト生産は、りんごや水稲の複合品目としての導入や新規就農者の増加により年々拡大している。
- ・しかし、全国的にミニトマトの生産が拡大傾向にあることから、今後、産地間競争を勝ち抜くためには産地力を強化する必要がある。



相談員による結束作業実演

### 【普及指導活動の内容】

- ・「津軽のミニトマト」連絡協議会を開催し、関係者間の意識統一を図った。
- ・フォローアップ相談員を4名から7名に増員し、新規生産者への指導体制を強化した。
- ・省力技術等導入実証ほを設置し優位性を検証した。
- ・実証ほを活用した研修会、自動かん水装置の自力施工研修会を開催し、省力技術等の導入啓発を図った。
- ・流通事業者を交えた商品づくり担当者会議を開催し、ワンランク上の商品づくりの方向性を検討した。



自動かん水装置の実演指導

### 【成果】

- ・平成27年から栽培を始めた新規生産者の販売量は、95t増加し312tとなった。
- ・省力技術等の導入戸数は14戸増え20戸、10a以上作付戸数は9戸増え82戸となった。
- ・2農協合わせたミニトマトは、生産者が23戸増え206戸、作付面積が2ha増え20ha、販売額が1.3億円増え8.6億円となった。
- ・ワンランク上の商品づくりについては、首都圏有名レストランへのサンプル提供や県内小売店でのテスト販売により、求評を行うこととなった。



ワンランク上の商品づくりを検討

# 1.3 市場ニーズや地域特性に応じた農林水産物の生産振興

## ～すもも有望品種「サマーエンジェル」等の高品質安定生産の推進～

### 【概要】

すももの高品質安定生産のため、栽培管理の適正化や収穫適期指標の作成等に取り組んだ。

### 【対象名】

JA八戸果樹総合部会 プラム・プルーン専門部(112名)

### 【背景・課題】

- ・農協専門部では、すももの出荷量が増加しているが、摘果等の基本管理を実施せずに小玉果の多い園地がみられる。
- ・近年、「サマーエンジェル」等の有望品種が導入されているが、収穫適期が不明であり、晩生種では虫害がみられる。
- ・そこで、適正管理による品質向上と有望品種の栽培技術の確立を図った。



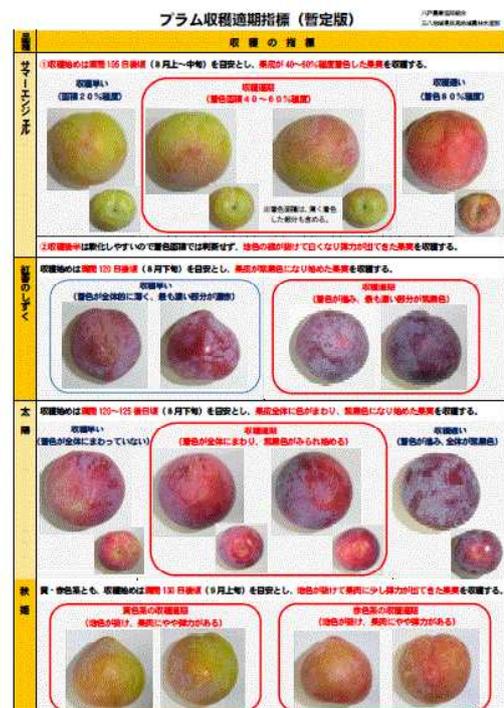
「サマーエンジェル」現地検討会

### 【普及指導活動の内容】

- ・大玉安定生産のため、栽培講習会や現地検討会、生産情報の発行等により、摘果等を適正に実施するよう指導した。
- ・基本技術の励行に向け、篤農家の実践技術も記載した栽培暦を作成し、配付した。
- ・「サマーエンジェル」を含む4品種について、調査研究により果実品質調査に基づいた収穫適期指標を作成し、配付した。
- ・病虫害対策を強化した防除暦を作成するとともに、交信攪乱剤の展示ほを設置して防除効果を実証し、害虫多発園では交信攪乱剤の導入を図った。

### 【成果】

- ・結実の多い園地では摘果が実施されてきており、主力品種「大石早生」の大玉果率は平成29年、30年とも71%に向上した。
- ・栽培暦と収穫適期指標の配付により、有望品種も含めて基本技術が周知された。
- ・病虫害対策を強化した防除暦が普及したほか、害虫被害の多い園地では交信攪乱剤を導入する動きがみられている。



収穫適期指標

## 1 4 極良食味品種「青天の霹靂」の高品質・良食味生産

～西北地域ブランド米の評価確立を目指して～

### 【概要】

『西北地域「青天の霹靂」良食味米生産指導プロジェクトチーム』を核に、生産技術普及拠点ほを設置し、これを活用しながら生産技術の指導に取り組んだ。

### 【対象名】

「青天の霹靂」作付者  
(394名)

### 【背景・課題】

- ・平成27年産から本格栽培が始まった「青天の霹靂」は5年連続で「特A」評価を取得した（平成26年の参考品種時を含む）。
- ・全国に通用するブランド米は誕生したものの、ほ場条件・気象条件次第で食味・単収の振れ幅が大きく、出荷基準を達成できない事例も多く見られ、ブランド米としての評価確立に向け、プロジェクトチーム（以下、PT）一丸となった生産指導が必要である。



育苗巡回（高谷部長を囲んで、つがる市）

### 【普及指導活動の内容】

- ・「青天の霹靂」生産技術普及拠点ほを13か所設置し、生育調査結果をPTで共有するとともに、講習会の拠点として活用し、以下に取り組んだ。①育苗・追肥・適期刈取り等の講習会開催による生産者へのタイムリーな情報提供。②前年度の出荷基準未達成者、新規作付け者個々への生育診断に基づいた追肥指導。③有機栽培・特別栽培実施者への指導ほの設置と得られた結果に基づいた個別指導。
- ・PT活動としては研修会や現地巡回など7回（県民局独自3回、県合同4回）実施し、本品種の良食味・高品質生産に向け、関係機関の意識統一を図った。



適期追肥講習会（板柳町）

### 【成果】

- ・本年度の生産目標達成率（玄米タンパク質含有率6.0%以下）は35.1%（目標80%）、単収は7.0俵（目標8.0俵）といずれも目標を大きく下回った。
- ・前年産に引き続き気象・土壌等の自然条件の影響を受け、生産目標及び単収の目標達成といった課題が残されたが、出荷基準達成率は93.3%と平年並みを維持した。



適期刈取り講習会（五所川原市）

## 15 水田を活用した加工・業務用野菜の産地育成

～たまねぎ、つくねいも、加工用トマト、ねぎの省力栽培実証に取り組む～

### 【概要】

水田への加工・業務用野菜の導入による所得向上、経営の安定化を図るため、加工用トマト、たまねぎ、つくねいもの省力技術等について実証を行うとともに、加工用ねぎについては、実証結果の情報提供により、省力・高収量栽培技術の普及に努めた。

### 【背景・課題】

- ・ 西北地域は稲作依存度が高く、米の消費減退が続く中で、水田への加工・業務用野菜の導入で所得向上が期待されるが、生食用並の所得確保には高収量生産技術や省力・低コスト技術の確立が必要である。

### 【普及指導活動の内容】

- ・ 以下の実証ほを設置するとともに、6月に関係機関や実証ほ担当農家で構成する事業連絡協議会を開催し、この後、現地ほ場で加工用トマト（つがる市川除）、春まきたまねぎ（つがる市稲垣）の生育状況の確認と意見交換を行った。① 加工用トマト実証ほ（つがる市、鱒ヶ沢町）。半自動移植機による省力化、エスレル処理による着色促進と収穫回数の節減の実証。② 春まきたまねぎ機械化一貫体系実証ほ（つがる市、中泊町）。半自動移植機、収穫機、ピッカーによる作業体系の実証、雑草管理と病虫害防除技術の確認。③ つくねいも実証ほ（五所川原市、つがる市） 低支柱栽培、肥効調節型肥料、防草シートによる省力化の実証。加工用ねぎについては、4月にJAつがるにしきたつがるやさい部会を対象に栽培講習会を開催し、昨年度設置した省力・高収量栽培実証ほの実証結果について情報提供を行った。

### 【成果】

- ・ 2か年の実証結果に基づき、加工用トマト・たまねぎの省力栽培手引を作成した。
- ・ つくねいもは、肥効調節型肥料及び防草シートにより労働時間が削減された。
- ・ ねぎは、肥効調節型肥料と在ほ期間の延長により省力化・高収量化が図られることが周知され、取組が拡大している。

### 【対象名】

加工用トマト生産者(3法人、2名)、加工用たまねぎ生産者(2名)、JAごしょつがる つくねいも生産者(25名)、JAつがるにしきた加工用ねぎ生産者(21名)



たまねぎ収穫(7/26・つがる市)



つくねいも生育状況(8/10・五所川原市)



加工用トマト定植(5/17・鱒ヶ沢町)



ねぎ栽培講習会(4/6・つがる市)

## 16 シャインマスカットの産地育成

～栽培技術の早期普及による高品質安定生産と面積拡大を目指して～

### 【概要】

ぶどう「シャインマスカット」の産地育成のため、『西北の「シャインマスカット」産地育成会議』を核に、基本技術を普及しながら、りんご研究所と連携して高品質を維持した省力化技術の開発と規模拡大、新規導入推進のための情報収集に取り組んだ。

### 【背景・課題】

- ・ 西北地域では、平成23年頃から消費者に人気が高いシャインマスカットの導入が始まり、栽培面積が増加している。
- ・ 本品種の産地育成を目的に、平成28年度から栽培技術の普及、長期貯蔵技術の検討、新規導入者向け栽培マニュアルの作成などに取り組んだ結果、栽培面積は、平成27年の1.1haから平成29年には2.9haに増加した。
- ・ 面積拡大と樹の成長に伴い生産量が増加することから、高品質を維持し省力化できる栽培技術、さらには、既存の経営への導入を検討するための労働時間・収入・経費などの指標が必要とされている。

### 【普及指導活動の内容】

- ・ 産地市場や農協等を構成機関とする『西北の「シャインマスカット」産地育成会議』を設置し、意識統一や連携強化を図りながら、以下に取り組んだ。① 講習会の開催（13回）と巡回指導（61回）② 成木化に伴う作業量の増加に対応するための省力化技術の開発（りんご研究所）③ 消費地市場における鮮度確認調査（東京都、大阪府）④ 経営モデル作成に向けた労働時間、収入、経費などのデータ収集（4戸）⑤ 中・上級者向け栽培マニュアルの作成（りんご研究所）

### 【成果】

- ・ 五所川原市やつがる市、中泊町の水田地帯では水稻育苗ハウスの有効活用として作付された。また、鶴田町や板柳町のぶどう地帯では露地で作付けが拡大され、平成30年の栽培面積は3.9haとなった。

### 【対象名】

シャインマスカット生産者等(64名)



産地育成会議



講習会(無核処理)



講習会(剪定)



栽培マニュアル

## 17 産直組織等を核とした西北産品の販売拡大

### ～産直組織の連携強化による販路拡大と女性起業家の育成～

#### 【概要】

産直施設の高齢者を対象とした農産物集荷システムの定着や産直組織と女性起業家のネットワークを活かした販路拡大の支援、若手女性起業家の育成等に取り組んだ。

#### 【対象名】

西北津軽産直ネットワーク協議会（15団体）、農山漁村女性起業家（72経営体）

#### 【背景・課題】

- ・ 西北管内には農林水産物の販売を行う32の産直組織があるが、会員の高齢化等による品不足で地域全体の販売額は頭打ちの状況で、品揃えの確保と消費者への継続したPRが課題となっている。
- ・ 個々の女性起業においては、新たな加工品開発や販路開拓が必要である。

#### 【普及指導活動の内容】

- ・ モデル組織である中泊町特産物直売所「ピュア」に対し、巡回指導や情報提供等、集荷システムの定着に向けた支援を行った。
- ・ ネットワークの連携強化による販路拡大を図るため① 西北津軽産直ネットワーク協議会の運営② 消費者交流やネットワーク間の出張販売③ 各会員の活動をまとめた「産直マップ」の作成を支援した。
- ・ 女性起業家の育成のため、「女性起業チャレンジセミナー」を2回開催し、商品開発も支援した。

#### 【成果】

- ・ 中泊町特産物直売所「ピュア」の平成31年2月末現在の出荷システムの登録会員が15名、年間集荷金額が約300万円となり、午後の品不足の解消につながるとともに、取組が管内の他産直施設にも波及し、新たに2組織が実施するようになったほか、2組織が実施に向けて検討中である。
- ・ 販路拡大を目的に産直ネットワーク間の出張販売等を支援した結果、売上げが増加し農家所得の向上につながった。
- ・ 女性起業家への支援により、加工と販売に関する技術や知識が高まったほか、新商品が2品開発された。



「ピュア」職員による集荷



チャレンジセミナーでの技術習得

## 1 8 西北の魅力を感じるグリーン・ツーリズムの推進

～大学生等を対象としたグリーン・ツーリズムの拡大を目指して～

### 【概要】

グリーン・ツーリズムの拡大のため、首都圏大学生によるモニターツアーの結果を反映した旅行商品の開発、研修会や個別指導等を通じた実践者の拡大に取り組んだ。

### 【対象名】

西北管内グリーン・ツーリズム実践者及び意向者（約40名）

### 【背景・課題】

- ・当地域では、グリーン・ツーリズム実践者の点在等により少人数の受入に限定され、また、手間が掛かるというイメージから取り組もうとする農漁家が少ない。
- ・このため、少人数旅行者をターゲットとした農山漁村体験と観光を組み合わせた新たな旅行商品の開発、さらに、取り組みやすい受入方法等の普及により実践者を拡大する必要がある。



推進方向等の共有を図った  
グリーン・ツーリズム推進会議

### 【普及指導活動の内容】

- ・管内市町や実践団体等で構成するグリーン・ツーリズム推進会議を開催し、推進方向や取組状況等について共有を図るとともに、連携を働きかけた。
- ・平成29年度に作成した旅行プランを活用して、旅行企画会社と連携し、首都圏大学生によるモニターツアーを2回実施し、評価結果を旅行商品へ反映させた。
- ・実践者の拡大に向け、研修会の開催（3回）や農家民宿開業希望者等に対する個別支援、受入組織の活動支援等を実施したほか、モニターツアーの際、関心のある農漁家等に対し、大学生の受入を働きかけた。



モニターツアーで  
農家民宿を訪れた首都圏大学生

### 【成果】

- ・管内で人気のある体験メニューや観光資源を組み合わせた、首都圏大学のゼミ等の現地研修向けの旅行商品2コースを開発し、パンフレットに取りまとめた。
- ・2名が農家民宿営業許可を取得するなど、新たに宿泊や日帰り体験に取り組む農業者が4名増加した。



大学生等の受入拡大をめざした研修会

## 19 新規就農者の定着と経営基盤の強化

～新規就農者向け研修と国の投資資金を活用した担い手育成～

### 【概要】

新規就農者の栽培技術や経営管理能力の向上と販売力の強化に向け、いきいきヤングファーマーゼミナールを開催し、知識・技術等の習得を図るとともに、農業次世代人材投資事業を活用し、関係機関等を含めた個別面談等を通じて、農作業従事者ではなく、農業経営者としての意識改革を進めた。

### 【対象名】

農業次世代人材投資資金受給者(72名)

### 【背景・課題】

- 管内には新規就農を志す若者はいるが、農業技術や経営感覚が十分ではないことから、就農したものの十分な収益を上げていない場合があり、栽培技術の早期習得と農業経営の安定化が課題となっている。



農業経営の心構えを学ぶ

### 【普及指導活動の内容】

- 新規就農者の栽培技術習得に向けて、個別指導を行った。また、農業次世代人材投資事業の評価会において、前年度の取組実績を評価し、技術・農地・資金に係る課題と今後の方向性について、情報共有を図った。
- 現地指導時に農地中間管理事業を紹介し、農地利用最適化推進員との連絡調整を進めるなど農地制度の周知に努めた。
- ヤングファーマーゼミナールにおいて、知識・技術に係る講義のほか、地域の優れた先輩農業者の取組を学ぶ機会を持った。特に、農業法人の視察研修では、作業工程管理や販売方法に関する講義を通じて、新たな発見や気づきを促し、経営者としての自覚を高めるきっかけ作りを行った。



先進農業者の創意工夫を学ぶ

### 【成果】

- ヤングファーマーゼミナールの受講をきっかけに、土づくりや病害虫のほか、農薬、肥料、輪作、農業機械、市場流通、農業経営に係る基礎的な知識・技術を身につけることができ、対象者のレベルアップにつながっている。

## 20 農作業の軽労化の推進と農業労働力補完体制づくり

### 【概要】

野菜農家の軽労化と農繁期の労働力を確保するため、女性農業者への実態・意向調査、事例収集、補助作業着の有効性や援農活動のモデル実証等により、身体的負担が少ない働き方と若手農業サポーターの確保に向けた体制づくりに取り組んだ。

### 【背景・課題】

- 管内の野菜生産は、大規模化や機械化が進む一方で、農作業を補助する女性や高齢者の負担軽減と、農繁期の補助作業者の確保が課題となっている。

### 【普及指導活動の内容】

- 補助作業着の実用性の検証、農作業現地コンサルティング、軽労化事例集の作成
- 農村リーダーや関係機関・団体等との労働力確保戦略会議の開催
- 若者が参加したくなる援農活動を実証する農業サポートモデルの実施
- 農村リーダー等を対象とした働き方改革セミナーの開催

### 【成果】

- 補助作業着の検証結果や、軽労化に係る農家の工夫事例などを取りまとめた事例集の作成、セミナーの開催などにより、軽労化への意識が高まった。
- 援農活動に参加した学生の大半がアルバイト等で継続して上北地域農業を応援する「かみきた農業サポーター」となった。また、自ら援農風景をSNS等で紹介するなど、農業・農村のイメージアップに一役買っている。
- 青森中央学院大学に援農サークルが結成され、管内JAや市町でも、学生を働き手とした労働力補完体制づくりに向けた独自の動きが見られるようになった。

### 【対象名】

上北地域管内の女性農業者（野菜農家）



農作業環境改善のコンサルティング



農作業軽労化事例集



大学生による援農活動の実証

## 2 1 水稲（主食・飼料用）の低コスト・省力技術導入及び飼料用米専用品種の作付け拡大

### 【概要】

水稲の低コスト・省力栽培技術として直播栽培及び高密度は種移植栽培の導入を支援した。

また、飼料用米専用品種の品種特性や栽培法を周知し、専用品種への切り替えを誘導した。

### 【対象名】

十和田地区農事組合法人連絡協議会、十和田アグリ株式会社、有限会社みらい天間林、農事組合法人フラップあぐり北三沢

### 【背景・課題】

- ・水稲の低コスト・省力栽培として、乾田・湛水直播栽培及び疎植栽培の普及拡大に取り組んできたが、新たに高密度は種移植栽培（密苗、密播）が注目され栽培が本格化する見込みである。
- ・管内の飼料用米栽培では、コンタミ等の懸念から主食用米での取組が多く、平成30年度以降、主食用品種に対する県からの産地交付金の配分が廃止されることで農家所得の減少が懸念される。



現地検討会

### 【普及指導活動の内容】

- ・省力栽培展示ほを5か所、飼料用米品種展示ほを2か所設置し、現地検討会を2回（5月、9月）開催した。
- ・講習会時に飼料用米栽培のポイント等やコンタミ防止の栽培体系を説明するとともに地域再生協議会へ情報提供した。
- ・展示ほ成績検討会を1回（3月）開催した。



飼料用米品種比較展示ほ  
（左：えみゆたか、右：みなゆたか）

### 【成果】

- ・管内の省力・低コスト栽培（直播栽培、高密度は種移植栽培）面積は平成29年の376haから705haに増加した。
- ・管内の飼料用米専用品種作付け割合は平成29年の41%から66%に増加した。
- ・飼料用米新品種「えみゆたか」及び有望系統の栽培特性が理解されるとともに、収量性が既存品種を上回ることが確認され、担当農家から高い評価が得られた。



展示ほ成績検討会

## 2 2 乳質改善共励会の活性化による酪農経営支援

### 【概要】

酪農経営支援の再構築のため、マンネリ化してきた乳質改善共励会の活性化、牛群検定等各種データを活用した酪農経営支援を実施したほか、経営支援を進めていくうえで必要な関係機関との体制づくりに取り組んだ。

### 【対象名】

管内酪農家138戸  
 (JAゆうき青森100戸、  
 JA十和田おいらせ30戸、JAおいらせ8戸)

### 【背景・課題】

- ・乳質改善共励会の結果が酪農経営に活かされていない。
- ・牛群検定及び生乳出荷データ等、各種データが酪農経営に活かされていない。
- ・酪農経営における現場支援が手薄になってきている。



乳質改善共励会現地審査

### 【普及指導活動の内容】

- ・乳質改善共励会に対する理解を深めてもらうためJAと協議し、現地審査前に情報提供を行ったほか、酪農家個々に現地審査結果を還元した。
- ・乳質改善共励会に対する取組が、通常の酪農経営支援に繋がるよう、定期的に関係機関と打合せをした。
- ・飼料メーカー等との現地巡回では、牛群検定成績や生乳出荷データ等を活用し、状況に応じた支援を実施した。



飼料メーカーとの巡回支援

### 【成果】

- ・本年度の現地審査の際、前年度の審査結果や情報提供を参考にした改善への取組が確認される等、活性化に向けた取組の効果が現れてきている。

乳質Aランク率：53%→54.3%

個体平均乳量：8,270kg→8,444kg

- ・現地審査結果をJAと検証した結果、飼養環境の改善に向けた取組を支援する必要があるとの認識が高まり、外部団体の事業活用に繋げることができた。



牛舎改善に関する研修会

## 2 3 上北トマトの生産拡大による産地力強化

### 【概要】

上北地域のトマト産地における産地力を強化するため、高品質多収生産に向けた技術の指導や、生産者の所得向上に繋がるような高単価時期の出荷割合を高めるための草勢管理指導に取り組んだ。

### 【対象名】

JA十和田おいらせ トマト部会（88名）、JAゆうき青森トマト部会（36名）

### 【背景・課題】

- ・JA十和田おいらせ管内は、産地としての歴史が長く、生産者の高齢化が進んで単収が伸び悩んでいる。
- ・JAゆうき青森管内は、経験の浅い生産者があり、栽培技術が未熟なことにより収量・品質が不安定である。

### 【普及指導活動の内容】

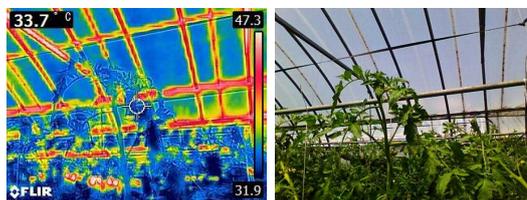
- ・栽培経験の浅い生産者に対する単収向上を目指した現地巡回指導。
- ・A品率向上や、高単価期である9～10月の出荷割合を高めるための技術指導。

### 【成果】

- ・生産者のほ場で実際の作業方法などを直接指導したところ、草勢維持などにつながった。
- ・気象の変化に合わせた栽培管理の指導と新品種の導入が進んだこともあり、A品率は、平成28年の31.2%から平成30年は34.1%に向上した。また、高単価期の9～10月出荷割合は、平成28年の36.1%から平成30年は39.9%に増加した。
- ・オオタバコガによる食害が問題となっていたため、黄色防蛾灯設置による害虫侵入防止実証ほを管内に2か所設置した。被害発生がやや多かった平成30年は、防蛾灯設置ハウスで被害が大幅に低減し、被害防止効果が確認された。



栽培講習会



サーモグラフィを利用した  
夏季高温時の萎れ対策指導



黄色防蛾灯実証ほ

## 2 4 生産力の向上によるながいも産地力の強化

### 【概要】

管内 J A の部会では、優良種苗の増殖、長大系統現地実証ほ及び省力技術体系化現地実証ほの設置運営、栽培講習会等により栽培時術の向上と管理の徹底を図り収量・品質向上に取り組んだ。また、ながいも担い手育成塾の活動を通じて担い手の育成を図った。

### 【対象名】

JA十和田おいらせ、JAゆうき青森、J A おいらせ各ながいも部会、JAゆうき青森野菜振興会種子部会

### 【背景・課題】

- ・ 3 J A の栽培面積は、県内の約 8 割を占めているが、平均販売短集 2 t 弱、A・B 品割合 6 割未満と低いことから、収量品質の向上を図る必要がある。
- ・ ながいも産地として生産技術を担い手に伝承していく必要がある。

### 【普及指導活動の内容】

- ・ 優良種苗の増殖と普及のため J A 増殖ほのウイルス防除指導、検査を J A と連携して実施した。
- ・ 農産園芸課、野菜研究所との連携し長大系統現地実証ほ、省力技術化体系実証ほを設置し、長大系統(園試23号)やドローンなどの省力技術の実証と実演を行った。
- ・ 排水対策の現地実証試験を J A 十和田おいらせ、全国農業システム化研究会等と連携し、深明きよ等による表面排水の徹底の効果について実証ほを設置した。
- ・ 担い手育成塾研修会を実施し、栽培技術
  - ・ 収量の向上に取り組んだ。



ドローンによる農薬散布



ながいも担い手育成塾研修会

### 【成果】

- ・ J A 種子増殖ほのウイルス検査を部会員と実施し、ウイルス病の見分け方、アブラムシ防除を徹底し、種子供給を確保した。
- ・ ドローン等による省力化技術を実演することで栽培者の理解が深まった。
- ・ 担い手育成塾生が「長いもの達人」の技術を学び栽培技術のレベルアップが図られた。

## 25 異業種との連携による直売所の活性化

### ～しもきたマルシェの開催による直売所の活性化～

#### 【概要】

下北地域の農林水産物と直売所のPRを図るために、「しもきたマルシェ」を開催したほか、生産者と消費者の交流イベントの開催、産直マップやレシピカードを作成・配布した。また、直売所と異業種との連携による商品開発や販路開拓に取り組んだ。

#### 【背景・課題】

- ・平成29年度から取り組んでいる「しもきたマルシェ」や直売所と異業種とのマッチングが、直売所のPRや販売向上につながってきている。
- ・しかし、直売所間の連携や直売所と異業種と連携した取組が少ないことや、消費者に対する直売所の地元食材の認知度が不足している。

#### 【普及指導活動の内容】

- ・「しもきたマルシェ」実行委員会で企画・運営を行い、7～10月は、第2日曜日をマルシェの日とし、計4回マルシェを開催した。
- ・管内の飲食店や食品関連業者などを対象として、アンケート調査を行い、調査結果を基に直売所と異業種とのマッチングを行った。
- ・先進事例である「あおもりマルシェ」の視察研修を行った。
- ・「しもきた地域産直マップ」と「直売所食材活用レシピ」を作成・配布した。

#### 【成果】

- ・4回開催された「しもきたマルシェ」には、延べ70店舗が出店し、約127万円の農林水産物を販売するなど、産直施設のPRや地産地消の推進を図ることができた。
- ・「しもきた地域産直マップ」や「直売所食材活用レシピ」の作成・配布等により、「しもきたマルシェ」や下北地域の直売所が広く周知されるようになった。
- ・直売所と異業種との連携により、下北産食材を利用した「ヘルシー弁当」や「つるあらめんセット」の商品化や県庁生協での特別メニューの提供が始まった。

#### 【対象名】

下北管内農林水産物直売所(16組織)、しもきたマルシェ実行委員会(11名)



しもきたマルシェの会場の様子



あおもりマルシェ視察



つるあらめんセット